

## 2月例会研修会・レポ 「明神山からの世界遺産ビューと達磨寺」

森 英雄

前日の天気予報に反し、幸いに雪も降らず、予定通りのコースを歩けた(欠席者6名)。バスを降り、赤鳥居下から登山。日が差し、風も弱い中、林間をゆっくり登る。開けた展望所で『亀の瀬崩落』の説明を受けた後すぐに明神山頂上に11時前に到着した。明神山は標高274mと低い山だが360度の大自然。水神社を中心にして、広い展望デッキが3カ所に設けられ、無料の望遠鏡が設置されていた。



各人が好きなデッキに分散し、持参した双眼鏡も使いながら「あの山は…」「あの塔は…」「あの古墳は…」等と大はしゃぎ。『古市・百舌鳥古墳群』、『法隆寺』、『薬師寺等』、『東大寺等』、『比叡山』と5カ所の世界遺産が見え、あちこちで二上山・葛城山・生駒山・大和三山・馬見丘陵などを得意気に説明している人がある。疲れて休憩デッキで休む人、少し奥の山に登る人など自由時間を各自が満喫。期待した『明石大橋』はガスっていて見えず残念だったが、約50分滞在して下山。赤鳥居まで戻り、下って12時15分に『尼寺廃寺跡学習館』に入って遅めの昼食。備え付けのパンフレットを配り、急ぎよ説明をする事になった。

この廃寺の概要、建立者などについて自説を説明したが、メンバーが一番興味を持ったのは『この寺の塔の基壇はどんな手順で作られたか』という1点。まさにこの廃寺跡の特徴は“日本で最初にこの問題に解答を出してくれた”事であり、それに関して、実物(塔基壇の構築過程の土層を剥ぎ取った土層断面)、実物大模型、説明パネルなどで丁寧な解説があった。簡単な説明後、あれこれと質問が続出。あーだこーだと“にわか討論会”

が各所で行われた。学習館の前にある塔の基壇に上がって数人でワイワイやり出した。ここでもミニ討論会。残念ながら時間切れで、それなりに理解した人・まだ疑問を持つ人などがそろって13時20分に達磨寺に向かって出発し、『聖徳太子葬送の道』を歩いた。

迷いながらも『乳垂地藏』に着き、どれがこの地藏なのかかわからず喧々諤々(けんけんごうごう)。「王寺町に聞いたらどうか…」等と疑問のまま『蘆田池』に行く。飛鳥時代の『片岡池』とも考えられ、『朝池(あしたいけ)』から名付けられたという地元伝説があるとのこと。次に王寺町の名のもとになった『片岡王寺(放光寺とも言った)跡』に着いた。今は王寺小学校が建っているだけ。この校庭ををぐるりと回り『片岡神社』『放光寺』を見学して最終目的地『達磨寺』に14時30分に到着した。

当会Sさんの同窓生である達磨寺住職さんが出迎えてくれ、本堂で説明が始まった。東の『高崎の達磨寺』は有名だが、西の『王寺の達磨寺』の方が古くからあり『本家』であると優しく力説。次いで聖徳太子伝説や寺の再建に関する工夫・大発見の話などの説明があった。本堂の下にある古墳の頂上部に石室があり、その中に石塔・合子(ごうす)・五輪塔の形の舍利容器(水晶製)が順次納められ、一番中に仏舍利が納められていた。この説明後、住職が僧侶になられた経緯などを楽しくお話しいただいた。その後、仏舍利や本尊のすてきな『千手観音』等を見てから境内で古墳・太子の愛犬雪丸像・松永久秀の墓などを案内してもらい、最後に一緒に写真を撮り住職と別れた。約1時間の見学であった。ここで解散。結構わいわい言えた10Km強の楽しいハイキングであったと思う。

